

# がんの話 広報げろ 2013.3

## がんの話し

現在、日本では2人に1人ががんに罹患し男性は4人に1人、女性は6人に1人ががんで死亡するとされています。それほどがんは身近な病気であり、生活する地域に密着した治療が必要な病気といえます。またがんにかかる割合は加齢とともに増加するものであり、高齢化が進む当地域においても対策に力を入れる必要があります。

かかりやすいがんの種類としては、男性では多い順に胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、肝臓がんなど、女性では乳がん、大腸がん、胃がん、肺がん、子宮がんなどとなっています。死亡者の多いがんとしては男性では肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんなどの順で、女性では大腸がん、肺がん、胃がん、膵臓がん、乳がんなどです。

胃がんは最も多いがんで、大腸がんは年齢とともに増加し、乳がんは40代後半から50代前半に多く発生しています。肺がんは死亡率が最も高いがんですが、乳がんはがんの中でも助かる確率の高いがんです。

胃がんや大腸がんは検診を受けることによって早期に発見されやすく、乳がんは自分で見つけることが出来る唯一のがんで早期に治療が可能のため、出来る場所とも関係して治る確率が高くなっています。肺がんや膵臓がんは早期発見が困難で、発見されたときには周囲臓器に広がっていることも多く、死亡率も高くなっています。

がんの治療法には手術療法、放射線療法、抗がん剤などの薬物療法などがあり、単独または組みあわせて行われます。がんの治療はがん細胞との戦いです。戦いに勝つためには敵を知らなければなりません。

がん細胞は元来生命力が弱く、発生しては消えていきますがそのわずかは性質を変えながら生き延び、徐々に、確実に、様々な顔を持って増えていきます。がん細胞が分裂して増えていくスピードはゆっくりで、一つの細胞が二つになるのに80日から120日はかかるとされています。これは胃の粘膜が再生するよりも遅く1cmのがんの塊になるのに4~5年はかかっています。乳がんでは触れてわかるようになるまでに同様の年月を要しています。がん細胞が増えていく間には細胞がリンパ液や血液に乗って全身の臓器に転移していきます。がんが完治するためには転移する前に手術的にがん細胞を除去する事が必要です。転移してしまったがんに対しては抗がん剤による治療が行われますが抗がん剤による完治は困難なことが多くがんと共存することになり、最後はがんにより生命が絶たれることとなります。

がんになるとその治療の様々な過程で病院との関わりが必要です。金山病院では地域で生活しながらがんの治療を行える体制をとっています。がん検診、手術、抗がん剤治療などに力を入れ、金山病院では困難な治療は専門病院と連携しながら皆さんのご要望にお応えしています。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦